

〈先頭より〉

- 一、年番金棒
- 二、お祭り
- 三、年番青年
- 四、表町青年OB
- 五、金棒四人
- 六、副宰領
- 七、先祓
- 八、前導神職
- 九、雑色

- 十、太鼓
- 十一、社名旗
- 十二、神
- 十三、神剣
- 十四、青龍
- 十五、朱雀
- 十六、白虎
- 十七、玄武
- 十八、御鉾
- 十九、御弓
- 二十、御太刀
- 二一、楽人

- 二二、稚児巫女
- 二三、監督
- 二四、年番警護
- 二五、神社世話人
- 二六、来賓前導神職
- 二七、来賓
- 二八、金棒三人
- 二九、錦旗
- 三十、宰領
- 三一、御幣
- 三二、紫翳
- 三三、神輿

- 三四、管翳
- 三五、供奉神職
- 三六、氏子総代
- 三七、辛櫃
- 三八、台持
- 三九、木遣保存会
- 四十、後衛神職
- 四一、奉仕会
- 四二、氏子参加
- 四三、山車八台

久伊豆神社 御由緒

当社は久伊豆大明神と古来氏子・崇敬者から崇められてきた、国造りの大神・縁結びの神・福の神として知られる大國主命と、その御子神で共に代表的な福の神である言代主命を主祭神とし、また配祀として高照姫命、溝咋姫命、天穂日命の三柱を奉斎しています。ご創建の年代は不詳ですが、平安時代中期以降には武士団武蔵七党の一つである私市党の崇敬も篤く、除災招福の神として武士や庶民の信仰を集めてきました。近世に入ると、徳川将軍家も篤く崇敬し、二代将軍秀忠、三代将軍家光も鷹狩りに際して参拝、休憩したと伝えられています。また当神社は古来、現在の越谷市の中核となっ

た元の四丁野村、越ヶ谷宿、大沢町、瓦曾根町、神明下村、谷中村、花田村の七ヶ所の総鎮守とされました。このように、当神社は往古より武士・庶民の崇敬・信仰を多く集めてきた御神威・御神徳により、明治の御維新の後には当地の総鎮守として明治六年四月に郷社に列格されており、以来、ご社頭はますますの繁栄、賑わいを見せて現在に至り、今日では除災招福、すなわち四方八方からの様々な災いを追い祓い、幸福と平安をもたらす「八方除」の御神威をいただくとうと、氏子区域のみならず、県下はもとより広く全国に亘って信仰崇敬を集めております。

越ヶ谷秋まつり会場案内図



※ドローン等使用はご遠慮ください。



久伊豆神社奉仕会

平成七年五月二十一日、伊勢の神宮様より下賜された内宮の板垣南御門を、久伊豆神社に曳き入れる「越谷お木曳祭」が執り行われました。このときには、神宮様より一番大きな奉曳車をお借りすることができ、また老若男女二千人以上が参加するという前代未聞のお祭りとなりました。この越谷お木曳祭は、伊勢神宮奉仕会の方々のご協力のもと、久伊豆神社関係協力団体で構成された実行委員会によって運営されました。なかでも、長年にわたり久伊豆神社秋祭り神輿の担ぎ手をする宮本町や、山車の曳き廻しを担う八ヶ町が重要な役割を果たしたことは言うまでもありません。そして、この越谷お木曳祭実行委員会をもとにして発足したのが、久伊豆神社

奉仕会でございます。

以来、二十余年にわたり当奉仕会は神宮奉仕会との交流をはじめ、ご縁をいただいた久伊豆神社を中心とした地域の絆や、その歴史と伝統を次世代へ守り伝えるべく活動してまいりました。特に、境内や第三鳥居（旧内宮板垣南御門）の清掃奉仕、旧暦十月末日のおかがり祭や正月のお焚き上げ・どんと焼きといった神事のお手伝いなどは皆々と培ってきた日本人の心ともいえる神社を奉賛し、その歴史と伝統に育まれた文化を次の世代に守り伝えたいと考えております。この趣旨にご賛同いただきご奉仕にご参加、ご協力いただける方々を募っております。